Twinkle 東京女子医科大学学術リポジトリ
Tokyo Women's Medical University - Information & Knowledge Database
https://twinkle.repo.nii.ac.jp

潰瘍性大腸炎患者におけるdysplasiaの経過と発癌に関する検討-厚生労働省研究班分類に基づく検討–

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-12-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 米澤, 麻利亜 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.20780/00032600

様式（6）

学　位　審　査

学　位　番　号	乙　第 2978 号	氏　　名	米澤　麻利亜
審　査　委　員　会	主　査　教　授	柴田　亮行	

論文審査の要旨（400 字以内）

■論文表題：
潰瘍性大腸炎における dysplasia の経過と発癌に関する検討　―厚生労働省研究班分類に基づく検討―

■審査結果:
本論文では、潰瘍性大腸炎の経過中に発生しうる大腸癌の前癌病変としてのジスプラジアを内視鏡生検病理検査で追跡し、厚生労働省研究班分類 (None; UC-I; IIa; IIb; III＝ジスプラジア; IV＝腺癌) に準拠して癌の早期発見法を模索している。従来、UC-IIb 以上の症例で発癌率上昇が指摘されてきたのに対し、本研究の新規性は UC-IIa 以上の症例で発癌率上昇を証明した点にある。一方、若年発症例や炎症性ポリープの出現例が発癌しやすい点は、従来の報告と同様であった。さらに、UC-III が検出された 29 例のうち、8 例 (27.6%) で発見時から 2～6 ヵ月 (中央値 2.5 ヵ月) 以内に癌が検出されたことは、観察期間を 5 年とした場合の発癌率 31.4%を考慮すると、UC-III 早期の発癌リスクの高さを物語っている。従って、UC-III 病変が検出された場合は、頻回の内視鏡生検が癌の早期発見に繋がる。

本要旨は当該論文が第二次審査に合格した後の 1 週間以内に医学部学務課へご提出下さい。（本学学会雑誌に公表）[学校教育法学位規則第 8 条]